

2026年版「請求書カード払い市場のインサイトレポート」

～資金繰り改善ニーズアップで市場は急成長、いま最も伸びている BtoB 決済領域へ～

市場規模（取扱決済金額）は3年で約20倍に成長、2028年度に1兆円超へ

参入企業の増加と認知拡大により、取扱決済金額は急拡大しています

1. レポート発刊の背景

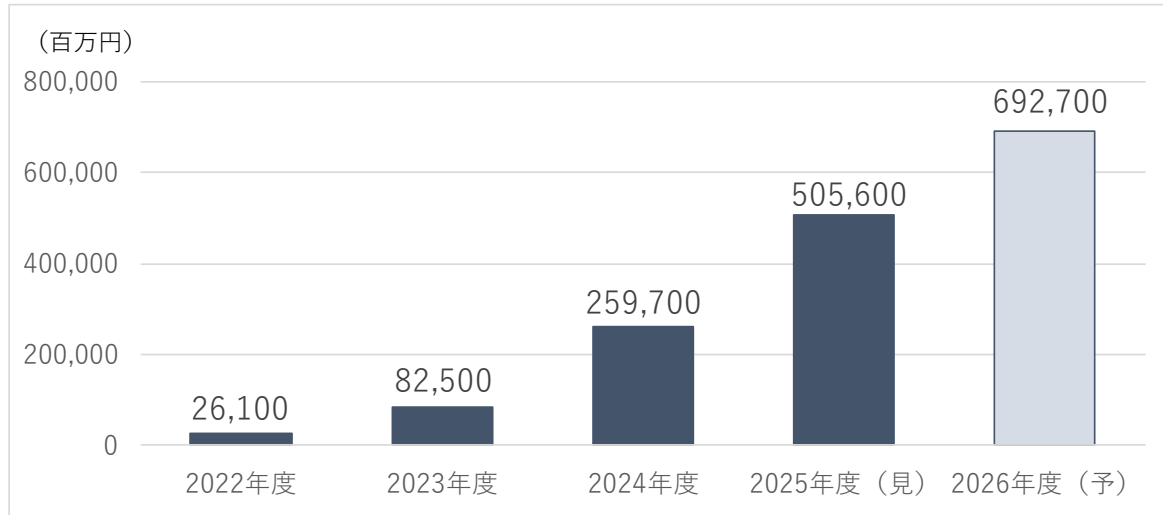
- 2022年に始まった請求書カード払い市場は、わずか数年で急成長を遂げ、2026年度には6,927億円規模へ拡大すると予測します。インボイス制度・電子帳簿保存法・手形廃止といった制度変更が重なり、中小企業の資金繰り改善ニーズが過去最大級に高まっていることが背景にあります。請求書カード払い市場はこれまでにない成長フェーズに突入しています。
- 本市場の中心となるのは、仕入や外注費の支払いに課題を抱える中小企業・個人事業主。平均決済額は数十万円規模で、「支払いサイトを延ばしたい」「資金繰りを安定させたい」「経理業務を効率化したい」といったニーズが急増。バックオフィスの効率化も同時に実現する手段としても、注目されています。
- 一方で、サービス提供会社は増加しているものの、商品スペックやスキームでの差別化が難しく、比較情報も不足しています。だからこそ、BIPS事業者（請求書カード払い事業者）、取次事業者の役割はこれまで以上に重要となってきます。
- BIPS事業者、金融機関、決済事業者、ERP事業者などの取次・パートナー企業など、今後の事業戦略立案に必要な情報を網羅した、業界唯一の総合レポートです。
- また、当業界の正しい認知の訴求に努め、市場発展の一助とすることを目的に発刊しています。

2. レポートの特徴

- 本レポートでは、有力BIPS事業者と取次事業者6社へのヒアリングを通して具体的な取組みを把握し、参入企業60社の実態から参入企業の定量データを整理しました。
- 市場規模の推移、制度変更の影響、参入企業の動向の他、主要事業者の戦略、利用企業のニーズ変化などを多角的に分析し、市場の最新動向をまとめました。
 - ・独自推計による市場規模分析
 - ・参入企業60社の実態
 - ・主要6社の深掘りインタビューによる、「中小企業の利用動向」「手数料・上限額・審査などの比較軸」「サービス提供会社が狙うべき業種」「営業トークのポイント」など
 - ・制度変更・経済環境の影響を網羅
 - ・2028年までの市場予測を提示

3. 市場動向・市場規模の最新分析

- 市場規模（取扱決済金額）は3年で約20倍に成長、2028年度に1兆円超へ
参入企業の増加と認知拡大により、取扱決済金額は急拡大しています。
市場の成長スピードは、BtoB 決済領域でも異例の規模です。



アンケート調査

■市場成長の背景

円安・物価高・金利上昇、ゼロゼロ融資返済の本格化など、企業の資金繰り環境は厳しさを増しています。こうした状況下で、支払いサイトを実質的に延長できる「請求書カード払い」は、中小企業を中心に導入が急増しています。

さらに、インボイス制度（2023年）、電子帳簿保存法の完全義務化（2024年）などの制度変更を追い風に、BtoB 決済のデジタル化が一気に進展。請求書カード払いは、資金繰り改善と業務効率化を同時に実現する手段として注目度が高まっています。

■ BtoB 決済 DX が本格化

手形交換所廃止の発表（2022年）を契機に、企業のキャッシュレス化が加速。入金消込・請求管理の自動化ニーズも高まり、オンライン決済の利用が急増しています。

■ 経済環境が資金繰りニーズを押し上げ

倒産件数の増加傾向を背景に、資金調達手段としての請求書カード払いの需要が急速に拡大。

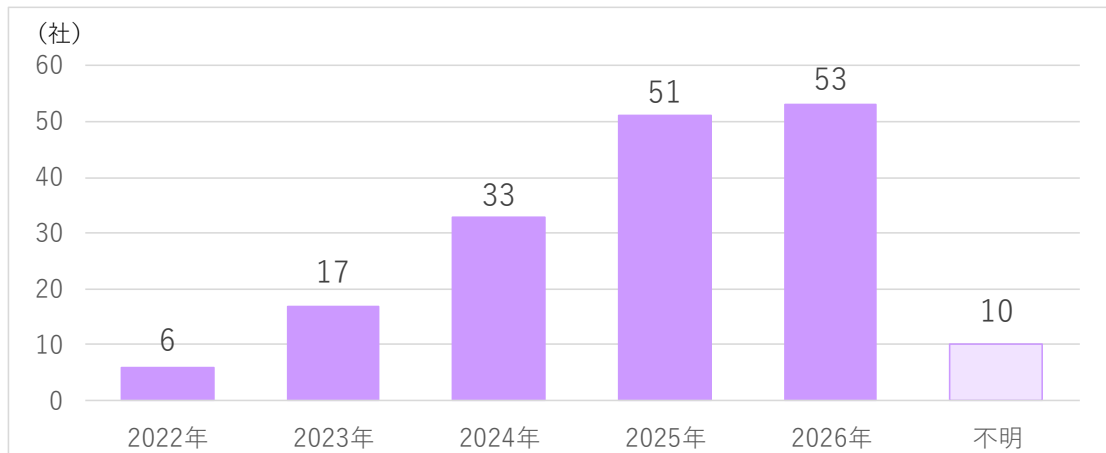
■ 今後の見通し

2025年末には自主規制団体が設立され、ガイドラインも公表。2026年以降は、BIPS事業者、取次等企業の増加、BtoB 決済 DX の浸透が市場成長をさらに後押しし、請求書カード払いは企業の資金管理インフラとして定着していく見通しです。

4. 参入企業の実態と取り組み

■ 参入企業数は約 60 社に拡大

BIPS 事業者、取次・パートナー企業を合わせ、2026 年時点で約 60 社が参入しています。



アンケートパートナーズ調べ

■ 企業実態を定量的に整理

業態構成、設立年・資本金・従業員数、提供サービス（対象者、国際ブランド、利用用途、手数料率など）などを定量的に把握し、整理しました。業界構造が分かります。

5. 主要 6 社へのヒアリングで定性情報を収集

- ・アルファノート
- ・インフキュリオン
- ・バリュエンスジャパン
- ・フリーウェイフィナンシャル
- ・マネーフォワードケッサイ
- ・三井住友カード

の 6 社に取材。事業戦略、顧客動向、課題、今後の施策などを深掘りし、業界の方向性を分析しています。

6. 本レポートのもくじ

第 I 章 総論・業界分析編

1. 市場概況

(1) BtoB 決済の現状

- ① BtoB 決済の DX が進行
- ② BtoB-EC 市場規模と EC 化率

(2) 請求書払いの課題と請求書カード払いのメリット・デメリット

(3) BtoB キャッシュレス、法人カード利用のメリット

(4) 法人カード市場

(5) “中小企業”の仕入、経費額

(6) 市場ポテンシャル

(6) 請求書カード払いサービスとは

(7) 請求書カード払いの定義とポジショニング

- ① 請求書カード払いの定義
- ② BtoB 決済のキャッシュレス化を推進するソリューションとサービス名

③ 類似サービス

④ 請求書カード払いのポジショニング

2. 市場規模の分析

(1) 市場規模の推計

(2) 市場規模の将来予測

3. 参入企業

(1) 参入企業-

- ① 顕在化している参入企業数は 63 社
- ② 潜在的には 70~80 社が参入企業と推定

(2) 参入業種・業態

(3) 請求書カード払いサービス提供会社の「選び方」

4. 市場動向

(1) 業界動向の概要

(2) 業界、参入企業の動き

(3) 法人決済を取り巻く環境の変化

- ① 手形発行が減少
- ② 手形廃止による「でんさい」へのシフト
- ③ 「でんさい」利用のボリュームゾーンは中小企業
- ④ 「でんさい」へのシフト、インボイス制度、電子帳簿保存法は強力な追い風

(4) 資金調達環境の変化

- ① 手形発行が減少し、割引手形も減少
- ② この 10 年超で早期資金化のニーズが上昇傾向
- ③ 貸金業者である手形割引業者の利用動向
- ④ 事業者向け貸付残高は、コロナ禍以降に急上昇

5. 自主規制団体設立、ガイドラインの公表

(1) 「請求書カード払い協会」の設立と役割

(2) ガイドラインの公表と策定の背景

- ① ガイドライン策定の背景
- ② 立替サービスの貸付への該当性の議論
- ③ 立替サービスの貸付への一定の判断材料が示される

(3) ガイドラインの本格運用

(4) ガイドラインの概要

- ① 定義
- ② 概要
- (5) 今後の活動内容

6. 業界の課題

(1) 業界成長の鍵は「認知拡大×ルール整備×リスク管理×プロダクト高度化」

(2) 業界課題の整理と対応策

- ① 認知不足による利用拡大を阻害
- ② 手数料競争による収益性の低下
- ③ 貸倒リスクの増大とカード会社の厳格化
- ④ UI/UX 向上途上による顧客離脱
- ⑤ プロダクト面の制約
- ⑥ その他

7. 将来展望

(1) 将来展望

- ① 市場の現状と成長基盤
- ② BIPS の価値と市場機会
- ③ 技術進化と将来像

(2) 今後の市場発展に向けた示唆

第II章 各論・企業分析編

1. 業界構造、参入企業の実態
 - (1) サービス提供の開始時期は 2022 年から
 - (2) 参入企業数は年々増加
 - (3) 設立年の古い企業、新しい企業が混在
 - (4) 資本金「1～100 億円未満」の企業が過半
 - (5) 従業員数規模が小さい企業の参入は少ない
2. 収益性
3. 商品・サービスの概要
 - (1) 利用対象者は「法人、個人事業主」が一般的
 - (2) 対応ブランドカードは「Visa、Mastercard、JCB」の扱いが約 6 割
 - (3) 利用用途
 - ①利用用途-
 - ②社会保険料の取扱い-
 - (4) 登録方法
 - (5) 登録時の必要書類
 - (6) 審査日数
 - (7) 請求書以外の必要書類
 - (8) 手数料率の最頻値は、税抜き 3.0%。最小値は 2.3%（非課税）
 - (9) 一請求当たりの手数料（最低手数料）
 - (10) 最大支払い延長期間
 - (11) 上・下限額
 - (12) 最短振込日数
 - (13) 複数枚利用の可否
 - (14) 支払い回数
 - (15) 利用ツール-
4. サービスの特徴・強み
5. 不正利用対策
6. 事業戦略
 - (1) 基本戦略のまとめ
 - (2) 各社の戦略
 - (3) 他社との差別化策
 - (4) 自社の課題と今後の展開
 - ①自社の課題
 - ②今後の展開

7. 財務戦略

- (1) BIPS 事業者
 - (2) 取次、パートナー企業
- ## 8. 既存顧客について
- (1) 企業規模、業種、他
 - ①企業規模
 - ②業種
 - (2) 利用状況の動向
 - (3) 利用者のニーズ-資金繰り改善に加え、業務効率化も？
 - (4) 囲い込み策と課題
 - ①囲い込み策
 - ②囲い込みの課題
- ## 9. 新規顧客について
- (1) ターゲット
 - (2) 獲得策と課題
 - ①獲得策
 - ②獲得策の課題
 - (3) 動向、変化

第III章 個表編

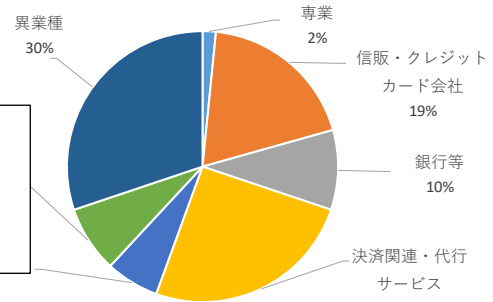
1. アルファノート(株)
2. (株)インキュリオン
3. バリュエンスジャパン(株)
4. フリーウェイフィナンシャル(株)
5. マネーフォワードケッサイ(株)
6. 三井住友カード(株)

7. 内容見本

(2) 請求書払いの課題と請求書カード払いのメリット・デメリット

請求書払いは、企業間決済で広く利用され、サプライヤー（売り手）は取引期間をまとめた請求書を作成・発行し、バイヤー（買い手）は指定日に後払いで銀行振込を行う、「掛け払い」とも呼ばれている支払い方法である。
支払いは通常、「月末締め翌月末払い」などが定められ、延期はできない。請求書払いは、導入コスト負担が不要、商慣習として根付いている。

【図表 13】 参入企業の業種・業態



内容見本

(1) 参入企業

① 顕在化している参入企業数は 63 社

弊社調べによれば 2026 年 1 月現在において、請求書カード払い協会が定義する BIPS 事業者（請求書カード払い事業者）は 19 社、BIPS 事業者とアライアンスを組んで顧客を集客し BIPS 事業者へ送客する取次、パートナーと呼ばれる企業は 44 社と判明している。

※BIPS事業者の他、集客のみを行うパートナー、取次等を含む アンケート調査

従って

対

ヤー

い期

などの

メリット

がある。

一方

で、

銀行

振込

であれば

数百

円の手

数料で

済むが、

請求

書カード

払い

の手

数料

コスト

がかか

るデメ

リット

もあ

る。ま

た、

請求

書を

カード

払い

で

決済

すると、

他の

支払

いに

使え

る枠

が減

るた

め、

資金

繰りに

影響

する

こと

など

の課

題も

あ

る。

一

方

で、

銀行

振込

では

数百

円の

手

数

料

で

済

む

が、

請

求

書

カ

ー

ド

払

い

の

手

数

料

コ

ス

ト

が

か

か

る

デ

メ

リ

ッ

ト

も

あ

る。

ま

た、

請

求

書

を

カ

ー

ド

払

い

で

決

済

す

と、

他

の

支

払

い

に

使

え

る

枠

が

減

る

た

め、

資

金

繰

りに

影

響

す

る

こ

と

な

ど

の

課

題

も

あ

る。

一

方

で、

銀

行

振

込

では

数百

円

の

手

数

料

で

済

む

が、

請

求

書

カ

ー

ド

払

い

の

手

数

料

コ

ス

ト

が

か

か

る

デ

メ

リ

ッ

ト

も

あ

る。

ま

た、

請

求

書

を

カ

ー

ド

払

い

で

決

済

す

と、

他

の

支

払

い

に

使

え

る

枠

が

減

る

た

め、

資

金

繰

りに

影

響

す

る

こ

と

な

ど

の

課

題

も

あ

る。

一

方

で、

銀

行

振

込

では

数百

円

の

手

数

料

で

済

む

が、

請

求

書

カ

ー

ド

払

い

の

手

数

料

コ

ス

ト

が

か

か

る

デ

メ

リ

ッ

ト

も

あ

る。

ま

た、

請

求

書

を

カ

ー

ド

払

い

で

決

8. 体裁、価格

調査期間：2025年12月～2026年2月

発刊日、体裁：2026年2月19日発刊 A4判 154ページ

発行所：アंकパートナーズ合同会社

販売価格：【PDF版】154,000円（本体価格140,000円+税14,000円）

ホームページアドレス：<https://www.ankhpartners.com/>

お問い合わせ：info@ankhpartners.com 又は 090-9158-3109

※お申込みのメールを確認後、PDF版レポート（4MB）とご請求書を各々別メールにてご送付いたします